

J R労働者が働きやすい環境づくりと社会に寄与する運動を作ろう！

# 東日本ユニオン 仙台地方本部

J R東日本労働組合仙台地方本部 発行責任者 阿部 勉 編集責任者 教宣部  
仙台市宮城野区東六番丁31-2 NTT電話 022-221-7375 NTT FAX 022-221-7509  
J R電話 031-3906 J RFAX 031-3909 メールアドレス unionsemdai@yahoo.co.jp

## 第4回地方委員会を開催

仙台地方本部は2月27日、「コラッセふくしま」において地方委員、傍聴など35名参加のもと第4回地方委員会を開催した。6名の委員が発言をし、2018春闘、エルダー・組織問題など、当面する活動方針を全会一致で確立した。



委員会は永澤副委員長、長あいさつで開会し、山形連合分会新庄地区班の佐藤誠委員を議長に選出し議事が進められた。

地本阿部委員長のあいさつ(要旨別掲)に続き、佐藤本部委員長は春闘情勢について触れ、東労組が格差ベアの根絶等を要求に掲げ、

ストライキの行使を含む戦術で臨んだ春闘は、労使間に深い溝を作り、管理者などの脱退で組織に動揺が走っている。会社は東労組がスト解除指令で示した確認事

### 地本委員長あいさつ(要旨)



仙台地方本部 阿部執行委員長

連日の雪との格闘に心よりお見舞い申し上げます。仙台地本は、第4回

求の具現化に全力で取り組んできました。問題意識と反省を風化させず、妥協のない安全の構築に取り組んでいく。第一線で働く労働者の代表として、継続的な検証活動の展開と、具体的な改善案を提言していく。

定期大会を開催し揺るぎない安全の構築と、組織の強化・拡大、要

2018春闘生活闘争は、政府や経団連が指導する管制春闘を否定し、年末手当の悔しさを踏み台に、満額回答勝利を目指し総団結で闘わなければなりません。本部主催の「2018春

闘総決起集会」成功に向け仙台地本全体で取り組むことをお願い致します。

組織拡大は、数の論理ではなく、真に、私たちの運動に賛同していただける方に、加入していただくことが、必ずや仙台地本の躍進につながると信じます。連携を密にし、スケジュール感を持った行動をお願いします。エルダー雇用問題、先が見えない業務委託や外注化の加速等、山積する課題に全力で取り組んでいく。



春闘方針を提起する佐藤委員長

項は事実と異なるとして、労使共同宣言の失効を通告するなど強硬姿勢を貫き、労働組合の存在否定ともとれる労務政策に舵を切ったと分析したうえで、「私たちが格差ベアには反対であり一律ベア獲得の実現に向け団体交渉を戦術として闘う」と明言し、組合員の総結集を訴えた。

エルダー問題に対する組合員の関心は高く「地本エルダー学習会」に37名の参加があった。本休雇用先の調査となる追加シートは、該当者の希望が伝わるよう、支社独自の様式となるよう対応を会社側に求めていただきたい。

### 第5回中央委員会発言(要旨) 車柳智彦委員

バー加盟を果たし、今日に至っておりません。しかしながら、オプ加盟ならでの問題も多くあり、本部には、一日も早い産別加盟をお願いしたい。業種別部会、協議会強化は、なかなか連携が取れていない実態にある。団体交渉や要求提出を基本に、一層の連携が図られるよう、本部のご指導をお願いいたします。

### 地方委員の発言

#### ◎江口委員(新庄地区)

地本の役員体制変更後から、連絡の遅れを感じている。体制の整備をお願いしたい。ストライキをめぐる一連の動きのなか、脱退者の数や今後の見通しについて情報があれば聞かせて欲しい。

#### ◎早坂委員(自動車)

退職者が多く要員不足の問題が深刻である。バス路線の廃止にともない、分会間の行き来が出来なくなった。各分会へ直接連絡をいただきたい。出向規程でも自動車を除く取り扱いがあり、格差を感じている。中途採用も多く、格差が退職に繋がる悪循環となっている。

#### ◎渡辺委員(宮城)

エルダー職場での団体交渉が出来ないなか、TSS仙台営業部に問題を投げかけ、仙台駅東口改札の休養室リネ

ンをクリーニングという形で環境改善につなげる事ができた。他の地本、分会へ、情報を発信して欲しい。日々の働きかけの成果であり、引き続き労働条件の改善に向け取り組んでいきたい。

#### ◎佐藤委員(福島)

エルダー社員制度は公平、納得が感じられる制度になるようしていただきたい。賃金の満額獲得は譲れない要求である。総決起集会の成功に尽力したい。組合員減少が及ぼす地本の組織状況を懸念する。統一の意義に自信と確信を持って、大同団結を目指していただきたい。

#### ◎加藤委員(山連)

エルダー予定者に、未だに雇用先の提示がなされていない。交渉の強化をお願いしたい。左沢営業所では、施設関係の制度改正があり、4月1日実施との情報がある。具体的な話がある。

## エルダー頑張る



阿部寿美さんは、56歳の時に新庄保線技術センターから第一建設工業新庄工事所へ出向し、平成28年5月から同社でエルダー社員として勤務している。業務は軌道管理全般であるが、JRの都合による勤務変更が多い。特に大雪の時は日勤から継続で夜勤となるため、遠距離通勤者は帰宅しない。しかし、職場は更衣室だけで、休む所がないため、夜勤の前夜で仮

眠をとることもできない。そのような過酷な労働環境にあるため、効率的な除雪作業、業務指示を要望しているが、指令との認識の違いにより、作業終了予定時刻を過ぎ、列車の運行に支障をきたす事があるという。夜勤業務の大変さから、2年前にはプロパー社員が一人退職し、その後、補充は行われていない。安全・安定輸送を阿部さんたちが最前線確保している。

#### ◎菅井委員(山連)

エルダー社員の本体雇用が始まるが、登用の基準や数が不透明であり、希望と違う提示の場合の対応など問題の解決に取り組んでいきたい。この間の会社と東労組を見ていると、何かを想定したものがあるように思えるが、見解をいただきたい。

#### 執行部答弁

▽地本の組織人員は2

月現在で117名、来年3月には、現職とエルダー組合員の数が逆転する。東労組のゴタゴタは組織拡大にとって絶好の機会と見ることもできるが、噂話も多く惑わされなければならない。地方本部としても情報を精査し、現実を見極めて対応していきたい。

▽出向特別措置などの格差については、自動車を別会社として位置づけていることに起因

に問題が生じた場合は、しっかりと対応したい。▽脱退者の数、新たな組織の有無についても実態の把握に努めていきたい。

#### 書記長集約

6名の委員から発言をいただいた。東労組と取り巻く一連の問題を組織拡大への第一歩と捉え、脱退者の受け皿となるべく、加入を呼びかけよう。安全の確立に向け、問題解決をリードする取り組みをお願いする。エルダー問題は本部と連携し、組織強化については、地本内3分会と東北自動車本部とのコミュニケーションを基本に、相互扶助と団結が図れる取組みを構築していく。ユニオン組合員・JR社員としての集大成を成すため、若い仲間との連帯の中に全組員が参加していくことを実践しよう。

◎